

書 評

● 田中 一正 (昭和大教授・医学疾病学/山梨赤十字病院内科(呼吸器)非常勤医師)

NPPV ハンドブック



執筆：聖路加国際病院呼吸療法
チーム

編集：蝶名林 直彦

B5 頁176 2006年
定価 3,990 円(本体 3,800 円+税 5%)
[ISBN 978-4-260-00070-3]医学書院刊

誰が誰のためにどのように NPPV を安全に行うか、刻々とバイタルサインの変化するなかで NPPV をどう具体的にを行うか、そのための指導書として、本書は実に簡潔に編纂されています。また、NPPV の適切な対応とは何か？など、実践の中から湧き出たさまざまな問題点も本書では、見事に解き明かしてくれています。

「これはどうするの?」、「え〜っとどうだったけ?」、「ちょっと調べてよ!」

これらは、現場の毎日の会話のなかにある疑問と不安のやり取りです。

「こうでいいのよ!」つい、知ったかぶって言ってしまった。「うまくいかないのは私のせいじゃない」患者さんの状態や体つきが悪くて合わないのだ。先生の指示がおかしいから……。思うことはみな同じです。でもいちばん困っているのは、あなたではなく患者さん。経験不足で自信のない先生と NPPV を試したことはあるけど指示されたことだけをやっていただいたあなた、この本のな

かで症例を振り返ってみませんか。こうしてあげられれば……。こういう方法もあったんだ! 経験と知識が結びついてこそ、よりよい医療に結びつくのではないのでしょうか。

そんな気持ちで本書を読んでもみると、急性期 NPPV のための施設とチームワークでは「何を、何のためにモニターするか」「患者状態の観察で注意するポイントと対処法」「挿管のタイミング」という表題で書が進み、さらに、「慢性期に移行する場合」「クリティカルパスによる NPPV 導入の実際」「長期導入例のモニタリング」と呼吸器疾患患者の急性期から慢性期の流れに沿ってその時々ポイントが記されています。

さらに、呼吸ケアの実際としてまずマスクフィッティング維持のコツが解説されています。それぞれの出会う場面場面で何が患者さんとのコミュニケーションで最も大事か、そのためには何をすべきか、を大切にされる聖路加国際病院の呼吸療法チームの姿勢が注がれた良書となっています。

経験豊富な先生も、これから必要に迫られて NPPV の指示を出す先生も、在宅でご家族と一緒に看取る先生も、ぜひ一読していただきたい本です。

チーム医療をめざしたいあなた! 本書をテキストに勉強会を始めてみませんか。医師とともに患者さんのために一緒に読んでみたい本です。あなたの病院にも呼吸療法チームの産声が上がりますよ。